

# ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第15号 平成27年7月28日

野球は間も大事です・・・

チームでピンチを救えず！

	1	2	3	4	5	6	7	8	R
D	0	1	1	0	0	0	6		8
G	0	2	1	0	1	0	0		4



Victoria4戦目を三ツ池公園野球場に出向き、DAKYO倶楽部と戦った。勝てば1位通過がぐっと引き寄せられるゲームだけに、メンバーも非常に士気が高くゲームに望んだ。そして、達脇がマウンドに上がり、その時は始まった。初球はボール、2球目を右中間に2ベースを放たれ無死二塁としたが、後続3人をびしゃりと抑え、0点発進。その裏の攻撃、智が四球を選択し出塁、その後二盗でこちらにもチャンスを作ったが、後続が倒れ先制ならず。ゲームが動いたのは翌2回、この回先頭を三ゴロに斬り一死としたが、次打者6番に右越えの本塁打を放たれ先制を許す。しかしこれも後続をびしゃりと抑え最少失点の1点に抑えた。ピンチの後にチャンスが訪れる野球のセオリー、5番浅沼が三線を破る2ベースで出塁、6番深沢も死球で出塁し無死一・二塁のチャンス。7番祐介に出されたサインはバント、これをきっちり祐介が決め、一死二・三塁と絶好の得点シーンを作る。ここで8番山林が打席に。カウント1-1からの3球目を放つと打球は、詰まり気味の二ゴロ、この間に浅沼が生還し同点。そしてこの打球で深沢が三塁に進塁、そして9番達脇、追い込まれた1-2から綺麗な中前適時打で逆転に成功した。翌3回には2本の長短打で1点を返され同点とされたが、浅沼からのサードへの返球が功を奏し、更なる追加点を許さず。そしてその裏、二死から昌平が2ベースで出塁。次打者浅沼の打球は完全に詰まった捕ゴロ、しかし、これが送球エラーとなり、昌平が生還し、またもやリードする展開、5回にはDPでピンチを凌ぐ。その裏の攻撃では、2つの失策に盗塁を加え劣せず1点を追加。6回には連続四球に安打が繋がり無死満塁の絶対のピンチとなったが、これも後続を凡打に斬り、その差を達脇が守る。そして最終回、先頭に右線2ベースで出塁を許すも、後続2者を斬り、二死二塁、後一つでこのゲームの勝利かと思った瞬間、流が大きく相手に傾いていった。打ち取ったかに見えた打球を野手が失策し、二死一・三塁、ここで打席に入った助っ人打者は今日結果が出ていない状況。2-2から振り抜かれた打球は、左越えの逆転3ラン、更に、ここから、安打・四球・失策とガタガタ状態になり、結果打者11人に6点を取られ、勝利のボールがグラブから落ちてしまった。また、大量失点がここからのリーグ展開に非常に不利な状況をチームに残してしまった。

振り返ってみると、今日は何と言っても「間」だろう。野手が失策したが、今一度、タイムを取り、状況を確認する事を行っていたら、と思うと、それが出来なかったチームが敗戦を呼んでしまったと言っても過言では無い。現に前半ピンチとなった際、タイムを取り、投手を励ましたことによりその後の打者をびしゃりと抑えたのだから・・・ 本予選も残り1試合、結果は勝利あるのみである。